

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 2 月 17 日

【評価実施概要】

事業所番号	3671500639
法人名	医療法人 清樹会
事業所名	グループホーム碧
所在地	徳島県板野郡藍住町徳命字新居須64-2 (電話) 088-693-4550

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 21 年 2 月 17 日

【情報提供票より】(平成 21 年 1 月 20 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤:18人、非常勤:4人、常勤換算:鉄門 6.71人 樹門 7.01人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り	
	2 階建ての	2 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	光熱費:7,500円、その他:実費
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ - 円
	または1日当たり		- 円

(4) 利用者の概要 (平成 21 年 1 月 20 日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	8 名		
要介護5	1 名	要支援2	- 名		
年齢	平均 87 歳	最低 64 歳	最高 98 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	清水内科、徳島県立中央病院、東徳島病院、猪子歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は静かな田園地帯に建てられた2階建ての建物であり、南側の大きなガラス戸から、明るい日差しと吉野川の堤防が目に入り季節感が感じられる。建物の周りをコの字型に囲んだ広いベランダは、開放感を味わえるだけでなく非常時の避難場所としても利用できる。共用空間で思い思いにくつろぐ利用者の落ち着いた表情と、笑顔をやさず支援する職員の姿が印象的である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題である「入浴を楽しむことができる支援」は、改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解し、自己評価は管理者と全職員が話し合い作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回開催している。会議は利用者・家族・町担当職員・民生委員・管理者・職員等が参加し、行事・緊急対策・外部評価結果等について意見交換している。内容は議事録として残されているが、全職員間での共有が不十分である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関には意見箱を置き、外部の苦情相談申し立て機関の明示もしている。来訪時や面会に来られた時等にその都度近況を報告し、家族が気軽に意見を言える雰囲気づくりができています。また家族の要望等を確認して運営に反映し、支援に活かすことができています。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	秋祭りには子ども御輿、クリスマス会には親子会、また老人クラブの来訪等、いろいろな年代層との交流が定例的に図られており、地域の方々のグループホームについての理解も深まっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての事業所独自の理念をつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング時などに、理念や方針・目標を具体的に話し合っ共有し、実践に活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	秋祭りには子ども御輿、クリスマス会には親子会、また老人クラブの来訪等、いろいろな年代層との交流が定例的に図られており、地域の方々のグループホームについての理解も深まっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、自己評価は全職員で作成している。外部評価の結果はミーティングで報告し、改善に向けて検討し実践している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催している。会議は利用者・家族・町担当職員・民生委員・管理者・職員等が参加し、行事・緊急対策・外部評価結果等について意見交換している。内容は議事録として残されているが、全職員間での共有が不十分である。	○	運営推進会議における議事内容については、全職員が回覧して確認印・サインするなど情報を共有し、サービスの質の向上に活かすことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の窓口を利用者の利用状況報告やパンフレットを届けたり、事故対応の相談に出向くなどし、交流を深めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来訪時や面会に来られた時等にその都度近況を報告し、家族が気軽に意見を言える雰囲気づくりができています。事業所からの便りも年3回、発行している。また金銭出納についても定期的に報告し、家族の確認印が押されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた時など気軽に意見を言える雰囲気づくりを行っている。玄関には意見箱を置き、外部の苦情相談申し立て機関の明示もしている。また家族の要望等を確認して運営に反映し、支援に活かすことができている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職を抑える努力をするとともに、異動は最小限にとどめ、利用者へ不安を与えないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には順次参加できるよう配慮し、資格取得にも協力的な支援をしている。研修参加者は報告書を提出し、全職員が内容を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会徳島県支部の研修や実践者研修に参加するなどして知り合った同業者と情報交換したり、相互訪問の機会をつくるなどサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族に何回でも見学に来てもらい、グループホームの雰囲気に慣れ、本人が納得された上での利用となるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを持って、お互いを認め合い支え合って生活している。利用者から職員に対する感謝の言葉もよく聞かれる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の表情・動作を注意深く観察したり直接的に働きかけるなどし、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の意向と関係者の意見が反映された介護計画になっている。介護計画作成および見直し時は、家族に開示し同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間に応じて見直されている。また利用者の状態変化時など必要に応じて適宜見直しもされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制がとられている。また、本人・家族の要望や状況に応じて、通院や外出等柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向・意見を尊重し、希望するかかりつけ医への受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の看取りについては、入居時に利用者や家族に説明している。本人・家族の意向の変化も尊重し、必要時には関係者間で話し合い、その時々意向の共有もできている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりへの声かけや対応はさり気なく、プライバシーへの配慮が感じられる。プライバシー保護マニュアルを作成し、秘密保持も徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れの中で、一人ひとりの体調・気持ちを考慮しながら、居室で食事したり、散歩のタイミングを工夫する等の支援がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みに応じて食材や調理方法を変え、準備から片付けまで個々のしたい事・できる事を職員と一緒に進めるよう支援している。食事は利用者と職員が同じ食卓を囲み、味付けなど話し合いながら、楽しめるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は最低限の回数を確認したり、チームで対応したり、また足浴や部分浴をするなど、一人ひとりに合った支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者一人ひとりの生活歴・趣味・特技を把握し、得意分野で力が発揮できるよう支援している。また役割分担表も作成し、利用者がされた事に対して職員は感謝の言葉を伝えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や買い物に行くなどの外出を支援している。またドライブや花見に出かけるなど季節を感じる支援もされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2階にあるグループホームの玄関を開けると、すぐ前が階段である。居間の南側のガラス戸が広く、そこからベランダには自由に出入りできるよう配慮はされているが、事故防止のため玄関ドアは施錠されている。	○	日中は鍵をかけないケアの実践・工夫に取り組まれない。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て年に2回、利用者とともに避難訓練を実施している。運営推進会議では地域の方々へ緊急時の応援を依頼し、飲料水の備蓄もされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人の管理栄養士が立て、朝食と昼食をホームで作っている。きざみ食・ペースト食など利用者一人ひとりの状態に応じた調理方法を工夫し、食事・水分摂取量も把握し、記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南側の大きなガラス戸から、明るい日差しと吉野川の堤防が目に入り季節感が感じられる。壁面には手作りのカレンダー・利用者の作品等が飾られている。広いフロアにはこたつ等が置かれており、利用者はテレビを見たり新聞や雑誌を読んだり、思い思いにくつろげる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や寝具が持ち込まれ、入り口には好みの暖簾が掛けられ、その人らしい部屋となっている。居室には洗面台が取り付けられ、口腔ケア等のプライバシー確保にも配慮されている。		